

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492601164	事業の開始年月日	平成29年11月1日
		指定年月日	平成29年11月1日
法人名	株式会社 ユニマット リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	相模原古淵グループホームそよ風		
所在地	(〒252-0344) 神奈川県相模原市南区古淵1-1-21		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	令和2年10月20日	評価結果 市町村受理日	令和2年12月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍ではあるがご家族様や社会へのつながりのツールとしてテレビ電話の活用をしています。日常のご様子を遠くにいても伺えると好評です。外出が減っている分センター内でのイベントを増やし工夫を行っています。また訪問診療、訪問看護と連携して、最後まで看れるグループホームをうたっております。実際に看取りの実績もあり、安心して最後までお任せいただけるセンターであるよう、努力しています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和2年11月19日	評価機関 評価決定日	令和2年12月7日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

## 【事業所の優れている点】

## ◇24時間医療連携体制

協力医療機関との24時間連携体制があり、看護サービスの強化、医療面の相談、適時適切な医療処置、緊急時の迅速で適切な判断と対応の体制がある。

## ◇介護計画のモニタリング体制

6か月、12か月の介護計画の詳細項目について、毎日モニタリングして結果を記録し、項目の適否、変更の判断材料の一つにしている。

## ◇内部研修による職員の資質向上

年間研修予定表を作成し、毎月のテーマごとに担当を決めて内部研修を行い、職員の資質向上に取り組んでいる。身体拘束・虐待、認知症ケア、感染症・食中毒、自立支援、個人情報保護などについて関連資料やマニュアルを用いて研修をしている。手書きに代わるタブレット型端末、海外のケア方法などについても勉強会を通じて最新技術の取得や情報収集に努めている。

## 【事業所が工夫している点】

## ◇コロナ対応の様々な工夫

家族が直接面会できないので、テレビ電話でお互いの元気な状況を確認し合う機会を作っている。玄関先の外気浴、前庭の花壇の手入れや野菜栽培を奨励し、カラオケ、塗り絵、折り鶴、職員による三味線、誕生日会など事業所内の活動やイベントを増やしている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	相模原古淵グループホームそよ風
ユニット名	花

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に運営理念の掲示を行い、周知と実践を行うように努めている。	・事業所理念「常に利用者の目線に立って物事を考え行動しよう」を開設時に職員が参加して作成し、各ユニット事務所に掲示している。 ・ユニット会議で常に理念を確認し、日々の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも参加しており、地域の一員として貢献できるようにしている。今年はコロナの影響で、地域交流はできていないが、近所の方が、何かと気にかけてくださり、声掛けや、野菜の収穫などを届けてくださる。	・自治会に参加し、地域の一員として交流するように努めている。 ・昨年は地域の祭りに参加したり、ボランティアを受け入れた。 ・今年はコロナ対応で地域行事は中止し、ボランティアを受け入れていないが、近隣住民との交流はある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で今年は外部からの来訪はご遠慮いただき、施設内でご家族、職員と行っています。コロナ終息後は、運営推進会議や地域の方からの意見をお聞きしながら、ウイズコロナとしての新しい時代に対応していきます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ終息後、再開時は、運営推進会議においては、ご利用者の現状やサービスの状況について報告し、家族、地域の方、行政との意見交換を行い反映できるように努めている。	・町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、利用者、事業所代表をメンバーとし、2か月毎に開催している。 ・今年はコロナ対応として書面会議を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の担当者へ、ご利用者の状態の変化などを適宜報告し連携に努めている。	・事業所は、市の担当職員と、事業所の運営状況、利用者の状況などについて適宜報告し、連携している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は本人に危険が及ばない限り行わない。医師、家族の指示や要請があった場合には同意書を示した上で対応している。	・身体拘束・虐待防止委員会を3か月毎に開催し、また、年2回全体会議を開き、身体拘束等の正しい理解と適正化に取り組んでいる。 ・身体拘束チェックリストで、職員自らの言動が適正か否かをチェックしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や各フロー会議、外部研修報告等にて他施設での虐待事例等報告、全員で検討、分析をして当施設でも、虐待が見過ごされないよう周知に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は認知症実践者研修などにおいて制度について学習する機会を得ている。又研修後は報告書を回覧し周知に努める。施設内に成年後見制度に関する資料を設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて料金や入退居条件、終末期についてや受診対応などお客様が納得するまで細部にてご説明している。また苦情やご質問がある時は、いつでも真摯に対応する事をお約束させて頂く。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や計画書の提示など、ご家族に現状をお話し、ご意見を伺うようにしている。ユニット会議や全体会議で職員に周知を行い、運営推進会議にて外部にも報告している。	・管理者や職員は、家族の面会時や電話で、家族の意見や要望を聴取している。 ・今年はコロナ対応で面会不可としているため、テレビ電話による家族と利用者の面会の際に、職員が意見や要望を聴取している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や毎日の朝礼において情報交換を行い、日々の業務や運営の改善へと繋がるようにしている。また個別に相談する機会も設けている。	・管理者は毎月開催するユニット会議、全体会議の際に職員意見や提案を聞き、有効な場合は運営に反映している。ケアの方法、おやつレクの内容などの提案がある。 ・管理者は必要に応じて職員と個人面談をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の補充を行い、残業しない職場づくりを目指している。有給休暇の活用や、契約更新での適切な評価など働きやすい環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修を受けている。段階に応じて、計画作成育成のため、実践者研修や管理者研修等を受ける機会も確保している。又、無資格者が働きながら資格を取るためのシステムもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナの影響で、現状はできていないが終息したら再会致します。以前は他施設への研修や病院での勉強会などへ参加し、サービスの向上へつなげていた。エリア内において毎月研修の場を設けており、それに参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に面会し、お話を聴く機会をつくり、そこで得た情報を会議等にて職員周知し少しでも希望に添えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に家族などが困っていること・不安なこと・求めていることなどを十分に伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から受けた相談(困っていること・心配なこと・不安なこと等)から必要なことを見極め提供できるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が安心してサービスを利用してくださいよう本人のペースに合わせてサービスを行っている。又、場の雰囲気、他の入居者様との交流の機会作りもさりげなく行なっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも面会時や電話連絡等により情報交換を密にし、利用者を支えあう関係作りに努めている。今年はコロナの影響でご家族との面会を遠慮していただいているが、コロナ終息後はより一層関係性の充実に配慮いたします。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人への手紙をお渡しし、内容をお伝えしたり返事を出す事を援助している。できる限り電話やコロナ終息後は面会もお受けし関係の維持に努めていく。	・知人、友人の来訪時は、リビングや居室に案内している。 ・今年はコロナ対応で面会不可であるが、電話の取次ぎ、携帯電話の使用、手紙の手渡しなどの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者同士が過ごせる様配慮し、孤立しがちな入居者が交合える機会を作る。社交的な入居者にうまく力を発揮して頂く場面を作るなどしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても近況を報告してくださったり、相談を受けたりし関わりを継続的に行っている方々もいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中でコミュニケーションを取りながら利用者の方の希望や要望を伺い、困難と思われる場合には都度改善を試みる。長期間継続が必要と思われるものは、ユニット会議において対応を協議する。	・日常の生活を通して利用者の思いや意向を把握している。表出困難な利用者の場合は、表情や問いかけへの反応を通じて思いを察している。 ・食の嗜好調査を3か月毎に行い、おやつや行事食に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り得るよう日常会話や家族からの情報等から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が今、何をしているか、どこにいるか見守れる場所で記録や調理の作業を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成の際は、本人及びご家族や関係者の意見を取り入れ、職員に話を聞き、本人の希望や現状に必要な課題を計画に反映させている。	・可能な職員が参加して、毎月ケアカンファレンスを開催している。 ・事前に医師、看護師、家族、本人の意見を把握し、毎日行うモニタリング結果を確認して、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤・夜勤帯にて、その日の様子、変化等個別に記録し、フロアスタッフ全員出勤時に読み確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット間連携して本人の要望に合わせて、対応。体調の悪いときは、受診対応を行っている。場合によっては送迎も行う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人がかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	コロナ発症以前は、地域のボランティアを定期的に受け入れていた。終息後は以前のような生活に戻す。又消防とは救急救命講習会の開催・防火訓練等の指導を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	受診は、ご家族、職員と共に協力しかかりつけ医への受診に対応している。	・内科医が月2回、歯科医が毎週訪問診療し、訪問看護師が毎週訪れ、健康状態を確認している。 ・従来のかかりつけ医の受診には家族が付き添い、都合がつかない場合は事業所職員が付き添い支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設にて費用を捻出し、訪問看護のサービスを毎週定期的に行っている。協力病院の看護師に相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族が対応出来ない部分においては、できることはすべて事業所で行う。入退院の送迎など。また病院の相談員の依頼により、事業所職員が話し合いの場に出向くことも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族もしくはご本人が、最後までグループホームで過ごして欲しい、との意思がある場合は、考えを最大限尊重し医師・看護師・家族・スタッフと連携を取りながら対応している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」があり、契約時に家族に説明し同意を得ている。2名の看取りを経験している。</li> <li>・職員は研修で方針を共有している。管理者は、看取り時の職員の不安に対する精神的支援をしている。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内掲示やマニュアル等を設置して、緊急時に対応できるような体制にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回あらゆる事態を想定し訓練を行っている。地域の消防署とも連絡を取り合っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間想定を含め年2回、避難訓練を実施している。非常災害時および避難時の利用者誘導手順について職員に周知している。</li> <li>・備蓄は飲料水、食品をリスト表で管理し、ヘルメット、懐中電灯、ランタンなどを用意している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けにて気分を害される事がない様丁寧な声掛けを心掛けている。居室へ入る際もノックをして一声かけてから対応を行うようにしている。	・職員は「接遇研修」で人格を尊重する言葉かけや支援の方法を学び、実務に反映している。また、管理者は朝礼やユニット会議で利用者へ対応について指導している。 ・個人情報に係わる書類は、鍵のかかる書庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食はパンを希望される方の対応。おやつ時等好みの飲み物を伺い対応。食事の際食べたい物へのメニュー変更。今年はコロナの影響で、外出、外食ができなかったが、終息後は外出時の服を決めていただいたりと自己決定していただく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在毎月訪問理美容に来てもらい、希望者には提供しています。入浴の着替えの際などは、出来る限り本人と一緒に選んだり等、個人性を尊重しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は買い物にも一緒に行っていたが、今は外出はしていません。利用者の方とできる方には調理や片づけを手伝って頂いている。誕生日の方がいる時はその方の好きなものを取り入れ工夫している。	・献立、食材は業者に委託し、お浸し、みそ汁、ご飯は職員が調理している。下膳、食器拭きを手伝う利用者がある。 敬老会、クリスマス会、誕生日会には手作りの食事やケーキを用意し、テーブルに生花を飾るなど楽しむ工	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は食事中は見守り、食べ方の混乱、食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行い、バランスの良い摂取に声かけしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア促す。介助が必要なご利用者は職員の介助にて施行。義歯の消毒も毎日行っている。又、週1回の訪問歯科。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを把握しタイミングをみて声掛けを行い排泄の失敗を減らせるよう支援している。	・排泄表をタブレットで共有し、利用者ごとに声かけ誘導している。夜間の支援は、定時声かけと居室設置のナースコールで対応している。夜間ポータブルトイレ使用者がいる。 ・体調が良くなりパット枚数を減らした改善例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムの把握と水分量のチェック、健康体操や屈伸、腹部マッサージを行っている。飲料には、牛乳・オリゴ糖、バナナ・寒天等工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者の体調や意向に合わせて、入浴時間、温度などを決めている。	・入浴は週2回午前中を基本とし、要望により午後も入浴できる。 ・浴室・脱衣場にエアコンを設置しヒートショック対策をしている。 ・菖蒲湯、ゆず湯、入浴剤、BGM、足のマッサージ、職員との雑談で利用者は入浴を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に過ごされています。夜間の睡眠パターンを配慮して夜眠れない方には、昼間運動をしたり、散歩に行ったり体を動かしてもらうようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の処方箋は個人ファイルに都度はさみ、いつでも目が通せるようになっている。配薬のダブルチェックや声だし確認で誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人が役割を感じ、出番を見出せる様場面作りの支援をしている。〈TV番組・週刊誌・園芸・食器・掃除・洗濯物たたみ・植物の世話・新聞〉		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦中で施設から出ることができません。ストレスがたまらないように、室内でも出来ることを工夫し、運動不足にならないように色々行っています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍前は外出レクリエーションで、外食や買い物に出かけたり、面会時に家族と外出をする利用者もいた。</li> <li>・現在は玄関先、ユニットのベランダで外気浴をし、気分転換を図っている。</li> </ul>	・コロナ禍で外出が難しい状況が続いていますが、職員で意見を出し合い安全な対策を考え、施設の周りの散歩や屋上の利用など検討して、利用者のストレスの軽減を図ることが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が自分でお金を持つ大切さを職員が理解し、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者の希望や力量に応じて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も家族や知人等よりかかってきたり、施設の電話を無償で提供して、こちらからかける事も多い。ご自分の携帯を使用している方もいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間を常に清潔を心がけ安心して過ごせるようにしている。季節や行事ごとに装飾を施し、季節感などを感じて頂くようにしている。温度については皆様に不快な思いをさせない様に適宜調整している。	・共用空間は利用者と職員が掃除をし、温度23℃湿度50%を基準に管理している。 ・生花・置物・季節の飾り物・行事写真などで季節感を出している。 ・リビングにソファを置き、利用者がくつろげる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にて気の合う仲間と会話を楽しんだり、リビングのソファにて自由な時間を過ごして頂き居場所の確保ができています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には個人の所有物で思い入れのあるものや、必要家具などを持ち込んで頂き、プライベートな空間を大事にしている。本人やご家族と相談し不要なものは処分し心地よい生活が送れるように対応している。	・エアコン、ベット、防災カーテン、テレビ台、クローゼットを備え付け、持込み品は「持ち物チェック表」で管理している。 ・安全に居心地よく過ごせるように職員は、利用者の居室内の動線を考慮して家具などを配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プランター等にて、草花や野菜を育てたり、雑草抜きをしたり、収穫の喜びを味わっている。		

事業所名	相模原古淵グループホームそよ風
ユニット名	星

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に運営理念の掲示を行い、職員に周知と実践を行うように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも参加しており、地域の一員として貢献できるようにしている。地域のお祭りなどには、積極的に参加している。時折、近隣の農園より野菜などいただくことがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議をご家族・地域代表・行政職員の方を交え、2ヶ月に1回行い意見交換をしながら理念の浸透を図っている。地域の協議会にも参加して、グループホーム代表として出席していたが、コロナ感染の危険性を重視し現在は参加・出席はしていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2か月に一回運営推進会議を行い、行政、ご家族、地域の代表の方から貴重なご意見を頂きそれらを反映させることで、サービス向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所連絡会、ケアマネ連絡会等に参加し、行政の担当者、ケアマネジャーと情報を交換し連携に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則行わない。法人全体で身体拘束について研修を行っている。又、身体拘束廃止の取り組みについて理解を深めている。又、状態に応じて話し合いを持ち取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修等により虐待の実態や現状を把握し、全体会議や研修報告にて周知に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は認知症実践者研修などにおいて制度について学習する機会を得ている。又研修後は報告書を回覧し周知に努める。事業所内に成年後見制度に関する資料を設置している。現在成年後見人制度を利用されているので、理解がしやすい状況にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて料金や入退居条件、終末期についてや受診対応などお客様が納得するまで細部にてご説明している。また苦情やご質問がある時は、いつでも真摯に対応する事をお約束させて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や計画書の提示など、ご家族に現状をお話しし、ご意見を伺うようにしている。ユニット会議や全体会議で職員に周知を行い、運営推進会議にて外部にも報告している。現在コロナ感染の危険性を重視し家族との連絡は電話としている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議、ユニット会議を開催している。日常の対話の中でも意見・提案聞く機会を設けている。いつでも意見が言える環境に努めて、風通しの良い組織づくりを目指している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の補充を行い、残業しない職場づくりを目指している。有給休暇の活用や、契約更新での適切な評価など働きやすい環境整備を行っている。職員と話をし、意見や提案をもらい反映している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修を受けている。段階に応じて、計画作成育成の為、実践者研修や管理者研修等を受ける機会も確保している。又、無資格者が働きながら資格を取る為のシステムもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設への研修や病院での勉強会などへ参加し、サービスの向上へ繋げている。エリア内において毎月研修の場を設けており、それに参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご本人家族に面会し、お話を聴く機会をつくり、そこで得た情報を職員に周知し細やかなサービスを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に家族などが不安に思っている事や困っている事などを十分に伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から受けた相談(困っていること・心配なこと・不安なこと等)から必要なことを見極め提供出来る様心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が安心してサービスを利用してくださいよう本人のペースに合わせてサービスを行っている。又、場の雰囲気、他の入居者様との交流の機会作りもさりげなく行なっている。今できていることをなくさないようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも面会時や電話連絡等により情報交換を密にし、利用者を支えあう関係作りに努めている。現在、コロナ感染の危険性があるので面会ができない為、タブレットなどを使用し状態が分かるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人宛の手紙の代読・代筆をし、馴染みの方々との交流が続くよう努めている。馴染みの方からの電話や面会があり、なごめる様な雰囲気づくりに配慮している。現在コロナ感染の危険性があるため面会は実施していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	中の良い入居者同士が過ごせる様配慮し、孤立しがちな入居者が交合える機会を作っている。また社交的な入居者に力を貸していただいたり、スタッフが仲立ちしたりすることで、孤立しないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても近況を報告してくださったり、相談を受けたりし関わりを継続的に行っている方々もいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の様子を見ながら、暮らし方や希望を共に考え、ご本人の意向に沿うように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り得るよう日常会話や家族からの情報等から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が今、何をしているか、どの位置にいるか、様子や状態を観察したことを話し合い、ご本人のもっているちから・状態を把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様からの思いやニーズを再度話し合い、定期的な検討会議だけでなく、3か月ごとにモニタリングを実地して、ケアプラン等に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤・夜勤帯にて、その日の様子、変化等個別に記録し、フロアスタッフ全員出勤時に読み確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画作成の際は、本人及び職員などに話を聞き、本人の希望や現状に必要な課題を計画に反映させている。またご家族や関係者の意見も取り入れる様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを定期的に受け入れている。又消防とは救急救命講習会の開催・防火訓練等の指導を受けている。現在、現在コロナ感染の危険性があるため事業所内は関係者以外入室はご遠慮していただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々のバイタル測定で、体調を把握し、処方された薬剤の安全な服薬をお手伝いしている。医療機関受診時には日々の状況を正確に報告し、適切な指示を仰いでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設にて費用を捻出し、訪問看護のサービスを毎週定期的に行っている。協力病院の看護師に相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お互いの情報を提供し合い情報交換し退院前には病院でのムンテラに参加し事業所での生活で不安のないようしている。ご家族が対応出来ない部分においては、できることは事業所で行う。例えば入退院の送迎など。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人ご家族の御意思を確認、尊重し重度化になる前に、ご家族、医療機関との連携を図り、チームでの支援体制を作り対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内掲示やマニュアル等を設置して、緊急時に対応できるような体制にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、非常食等を備蓄し、賞味期限の管理も定期的の実施しています。又防災訓練も年2回実施、地震火災等の災害時、確実に対応出来る様備えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しく温かみのある言葉遣いでゆっくり話をするように心がけています。入浴時や排泄時にはプライバシーに配慮した声掛け介助を行っている。個人情報の提出については、同意書を頂いています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食はパンを希望される方の対応。おやつ時等好みの飲み物を伺い対応。食事の際食べたい物へのメニュー変更や外食。又、外出時の服を決めていただいたりと自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在毎月訪問理美容が来てもらい、希望者には提供しています。また外出や、入浴の着替えの際などは、出来る限り本人と一緒に選んだり等、個人性を尊重しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニュー等や料理の温度、味付けを確認し、フルーツを添えるなどして工夫しています。たまには料理のメニューづくり、下膳配膳等、出来る事は一緒に行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員も入居者と同じ食事を一緒に食べながら食べ方の混乱、食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行い、バランスの良い摂取に声かけしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促す。介助が必要なご利用者は職員の介助にて施行。義歯の消毒も毎日行っている。又、訪問歯科による口腔ケアも希望できる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は、ご入居者様一人一人の排泄の時間を把握し、適時お声かけ誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムの把握と水分量のチェック、健康体操や屈伸、腹部マッサージ、食事には繊維質のある食事を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則週2回の定期的な入浴を計画しているが、個々に応じた希望もお聞きして時間などを相談して決めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に過ごされています。夜間の睡眠パターンを配慮して夜眠れない方には、昼間運動をしたり、散歩に行ったり体を動かしてもらうようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の処方箋は個人ファイルに都度はさみ、いつでも目が通せるようになっている。配薬のダブルチェックや声だし確認で誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人が楽しみごとや出番を見出せる様場面作りの支援をしている。〈TV番組・週刊誌・園芸・食器・掃除・洗濯物たたみ・植物の世話・新聞〉		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日や温暖な日当は職員が付き添い、ドライブをしています。ゴミ捨ての同行や、駐車場にて散歩など、出来る限り行うよう努めています。また外食にも出かけています。現在コロナ感染の危険性を重視し家族との連絡は電話としている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は持っていただかないようにしている。家族からはお小遣いとして事業所で預かっている。必要時に家族に相談し使用している。毎月ご家族に出納帳をお渡ししている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯を持っている方はご自由に連絡されている。他の方もご家族らの指示がない限り希望があれば対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の場として、ご入居者様の心安らぐ空間づくりを心がけ、季節を感じられる装飾をして落ち着いた環境づくりを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にて気の合う仲間と会話を楽しんだり、リビングのソファにて自由な時間を過ごして頂き居場所の確保ができています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れている家具などを持ち込まれ、ご自分の部屋として安心して暮らせるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プランター等にて、草花や野菜を育てて収穫の喜びを味わっている。広い駐車場を生かしてバーベキュー楽しんだり、掃除を共に行ったりしている。		

事業所名	相模原古淵グループホームそよ風
ユニット名	月

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に運営理念の掲示を行い、周知と実践を行うように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアを定期的に受け入れている。又消防とは救急救命講習会の開催・防火訓練等の指導を受けている。今年度はコロナの影響で、実施されていないが、防火訓練は事業所内で行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議をご家族・地域代表・行政職員の方を交え、2ヶ月に1回行い意見交換をしながら理念の浸透を図っている。地域の協議会にも参加して、グループホーム代表として出席している。今年度は行われていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では2か月に1度状況報告を行い、ご意見をいただいている。ご質問も積極的にいただいております。日常の業務の中身などもご理解いただいている。今年度はコロナの影響で、まだ開かれていない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を通して、行政と連絡を取り、協力関係を取っている。今年度は電話にて連絡をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度は特に「身体拘束・虐待」をテーマに毎月の研修を実施している。更にスタッフの理解を深めるよう取り組んでいく。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修等により他施設の虐待の実態や現状を把握し、全体会議や研修報告にて周知に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は認知症実践者研修などにおいて制度について学習する機会を得ている。又研修後は報告書を回覧し周知に努める。事業所内に成年後見制度に関する資料を設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて料金や入退居条件、終末期についてや受診対応などお客様が納得するまで細部にてご説明している。また苦情やご質問がある時は、いつでも真摯に対応する事をお約束させて頂く。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で、家族の来訪ができなくなっていました。電話連絡などで、ご意見・ご要望をいただけるよう積極的に情報交換をするよう努めている。その後毎月の全体会議などで実施に向けて検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常からいつでも意見が言える環境に努めて、風通しの良い組織づくりを目指している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の補充を行い、残業しない職場づくりを目指している。有給休暇の活用や、契約更新での適切な評価など働きやすい環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修を受けている。段階に応じて、計画作成育成の為、実践者研修や管理者研修等を受ける機会も確保している。又、無資格者が働きながら資格を取る為のシステムもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設への研修や病院での勉強会などへ参加し、サービスの向上へつなげている。エリア内において毎月研修の場を設けており、それに参加している。今年度は実施されていません。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に面会し、お話を聴く機会をつくり、そこで得た情報を会議等にて職員周知し少しでも希望に添えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に家族などが困っていること・不安なこと・求めていることなどを十分に伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から受けた相談(困っていること・心配なこと・不安なこと等)から必要なことを見極め提供出来る様心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が安心してサービスを利用してくださいよう本人のペースに合わせてサービスを行っている。又、場の雰囲気、他の入居者様との交流の機会作りもさりげなく行なっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも面会時や電話連絡等により情報交換を密にし、利用者を支えあう関係作りに努めている。今年度は面会が禁止になり、電話連絡で、状況報告や、ご希望などを聞きました。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はそれぞれのペースで来所されコミュニケーションを取られており、近くのスーパーなどにお連れして買い物などをしていただくよう計画実施している。今年度はコロナの影響で、面会ができていません。時期を見て再会します		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	中の良い入居者同士が過ごせる様配慮し、孤立しがちな入居者が交わる機会を作る。社交的な入居者にうまく力を発揮して頂く場面を作るなどしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても近況を報告してくださったり、相談を受けたりし関わりを継続的に行っている方々もいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で思いや暮らし方の希望・意向を会話などコミュニケーションをとり伺っている。困難な場合はその方が出来ることがやりたい事につながるような環境づくりをするようサービス計画書等に反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り得るよう日常会話や家族からの情報等から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が今、何をしているか、どの位置にいるか見守れる場所で記録や調理の作業を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施しており、面会時などの情報交換で必要な介護について計画作成に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤・夜勤帯にて、その日の様子、変化等個別に記録し、フロアスタッフ全員出勤時に読み確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット間連携して月に何軒も受診対応を行っている。場合によっては送迎も行う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを定期的に受け入れ、又消防とは救急救命講習会の開催・防火訓練等の指導を受けている。今年度はコロナの影響でボランティアはご遠慮いただいています。消防署から来訪されての訓練も今はしていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医優先にご家族が通院通いをして頂いている方と、訪問医を中心に診断・処方をしていただいている方と、選択可能になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所にて費用を捻出し、訪問看護のサービスを毎週定期的に行っている。協力病院の看護師に相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族が対応出来ない部分においては、できることはすべて事業所で行う。入退院の送迎など。また病院の相談員の依頼により、事業所職員が話し合いの場に出向くことも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人ご家族の御意思を確認、尊重し重度化になる前に、ご家族、医療機関との連携を図り、チームでの支援体制を作り対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内掲示やマニュアル等を設置して、緊急時に対応できるような体制にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練（内1回は消防立ち合い）非常通報、避難誘導は各職員熟知している。災害発生時には初期消火等地域との協力体制ができている。全館スプリンクラーの設置。消防到着時まで動ける訓練をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であり、お一人ずつ違う人生を歩んできて、教えていただくという姿勢を忘れず、丁寧な対応、プライバシーを尊重する心使いを常に心がけるよう指導している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食はパンを希望される方の対応。おやつ時等好みの飲み物を伺い対応。食事の際食べたい物へのメニュー変更や外食。又、外出時の服を決めていただいたりと自己決定の支援を行っている。今年度は外出機会はない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在毎月訪問理美容に来てもらい、希望者には提供しています。また外出や、入浴の着替えの際などは、出来る限り本人と一緒に選んだり等、個人性を尊重しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物の手伝い、お盆拭き、テーブル拭きなどは常時。野菜の皮むきやヘタ取りなどもお手伝いいただいている。食後の食器運びなどは毎食後手伝って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は同じテーブルに着き、食べ方の混乱、食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行い、バランスの良い摂取に声かけしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア促す。介助が必要なご利用者は職員の介助にて施行。義歯の消毒も毎日行っている。又、週1回の訪問歯科。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗はたまにある程度。出来る限りリハビリパンツ+パットまでに維持する方向を目指している。入居後は排泄パターンを早めに把握し、定時トイレ誘導などを実施している方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムの把握と水分量のチェック、健康体操や屈伸、腹部マッサージを行っている。飲料には、牛乳・オリゴ糖、バナナ・寒天等工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	原則週2回の定期的な入浴を計画しているが、個々に応じた希望もお聞きして時間などを相談して決めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に過ごされています。夜間の睡眠パターンを配慮して夜眠れない方には、昼間運動をしたり、散歩に行ったり体を動かしてもらうようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の処方箋は個人ファイルに都度はさみ、いつでも目が通せるようになっている。配薬のダブルチェックや声だし確認で誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人が楽しみごとや出番を見出せる様場面作りの支援をしている。〈TV番組・週刊誌・園芸・食器・掃除・洗濯物たたみ・植物の世話・新聞〉		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナの影響で、外出機会がない。家族とに面会もなかなか再開ができていない。バルコニーに出て、日光浴は多く取り入れている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が自分でお金を持つ大切さを職員が理解し、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者の希望や力量に応じて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も家族や知人等よりかかってきたり、事業所の電話を無償で提供して、こちらからかける事も多い。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	まずは清潔を第一に心掛け、衛生面での声掛けを積極的に実施している。2階の採光は良いので、日中は光を取り入れる様心がけている。また、適温なら屋上での日光浴やおやつ、体操などを実施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にて気の合う仲間と会話を楽しんだり、リビングのソファにて自由な時間を過ごして頂き居場所の確保ができています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本はご家族の設定した環境を継続しているが、使いにくい状況であれば居心地良い方向に変更しご家族に了解を得るようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	プランター等にて、草花や野菜を育てて収穫の喜びを味わっている。コロナの影響で、外出は出来ないが、2階のバルコニーで天気の良い日は外気浴をしたり、レクやおやつを楽しんでいる。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

相模原古淵GH

作成日

令和2年12月8日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	コロナ禍ではあるが災害時の近隣住民や自治会からの協力や支援を受けれるように連携を図れるように体制を整える。	地域からの支援体制を構築する。	近隣の方に挨拶を含め関係性を深めていく。	2021/4/1～ 2021/3/31
2	49	重度化・看取り経験が少なかったため職員も変わり、未経験の職員への研修も継続的に行いスキルアップを図る。	看取り・重度化した際の対応のスキルアップ。	年間研修に取り込み、訪問診療や訪問看護と連携を図りアドバイスをいただく。	2021/4/1～ 2021/3/31
3					
4					
5					